復申

# 学区解体の先にあるものは

馬居　政幸（静岡大学教育学部教授）

**横山験也先生へ**

「いじめ対策」と「規制緩和策」が重なって学区解体・学校選択の時代になるものの、そのことで生じる子ども親による評価が教師の全般的な質的向上を進める、とのご意見、興味深く読ませていただきました。研究者や行政担当者ならともかく、ご自身が評価の対象となることを前提に学校選択時代を肯定的にとらえられる横山先生の論旨に敬意を表します。しかし、この問題については残念ながら、私は横山先生ほど肯定的ではありません。

## 一　一二歳選抜が全国に

その理由の一つは、私立中学入試が一般化している大都市圏とそれ以外の地域を同列に論ずることができないからです。たとえば、東京都のある区では、小学校の上位三割が私立中学を受験すると聞きました。事実ならその三割の子どもと親にとって、学区は実質的に存在しないといえます。加えて、少子化の波は今後一二歳人口を加速度的に減少させます。しかし、私立中学は経営上の問題から定員を簡単に縮小できません。そのため、子どもの減少は公立中学の縮小で対処せざるをえないでしょう。その結果、私立中学入学者の比率は益々高まり、学区解体・学校選択の自由は進行する、ということになります。でもそれは教師の全般的な質的向上ではなく、一〇歳前後の子どもたちが限りなく受験競争に巻き込まれていく過程ではないでしょうか。

私は入試による選抜自体を否定するものではありません。しかし、一〇年ほど前、東京圏に住む友人が小学校四年になった娘のために塾探しで悩んでいることを聞き、違和感を持たざるをえませんでした。どんな理由であっても一二歳時に実施される選抜試験にむけて、一〇歳にも満たない子どもが夜一〇時頃に地下鉄やコンビニエンスストアをうろつく、という社会の異様性を認めることができなかったからです。

他方、私が生活する静岡市の場合、中学への進学は入試と無縁です。もっとも、高校入試ではそれなりに厳しい選抜試験があり、中三の娘を持つ親として悩みの種です。しかし、今年大学生になった長男の高校入試時と比較すれば、統一テストによる偏差値の廃止と少子化の進行とが重なったためか、徐々にゆるやかな受験風景に変わってきていることも実感しています。

ところが、もし学区が自由化されたならば、先の東京の私立と公立の問題が、静岡市の公立学校間に生じることにならないでしょうか。中学校を自由に選択できるようにする一方で、定員を一定にするなら、当然、人気のある中学は選抜試験を実施せざるをえないからです。この問題が小学校入学時に生ずるとすれば、どうなるでしょうか。

安易な学区解体は、せっかく進み始めた偏差値による選抜システムの見直しに逆行するのみでなく、その弊害の結晶ともいうべき大都市の一二歳時選抜問題を全国に拡大させるでしょう。さらには、その処理を誤れば、六歳時選抜問題すら生じさせる危険性があることを指摘せざるをえません。

## 二　誰のための解体か

現状のままでは学区解体に賛成できない二つ目の理由は、学区をはずそうとする意見の背後に、規制緩和という言葉が象徴するように、経済合理性優先の考えがあることです。すなわち、かつての臨教審での学区自由化論は、選択の自由と競争原理を学校教育の質的向上の契機にすることを求めたものでした。しかし、現在の学区解体推進の背後に、少子化で空いた学校の統廃合による教育費軽減と施設・敷地の転用という目的が見えます。特に、子どもの減少が著しい都市中心部の学校をより経済効果の高いビルに再開発するという計画がないでしょうか。



往復書簡

# 「いじめ」転校と親の校区意識・その将来を読む

私は、少子化こそ日本の学校教育が質的に向上できるチャンスと考えます。そのため設置基準の方を見直し、現存の施設等を個々の子どもに即した教育（新学力観）実践の新たな教育資源とすべきです。たとえ転用せざるをえない場合でも、目先の経済効果ではなく、近未来に確実に訪れる超高齢化社会のために活用すべきと考えます。

学校はその地域で生活する人々にとって、とりわけ高齢者に最も身近で親しみ深い施設です。小さい家庭で育つ子どもにとっても、経験豊かなお年寄りは〝生きる力〟を学ぶ手本でしょう。多様な人たちが集い、学び、教えあえる場として、学校をいかに開くかが、学区開放よりも重要だと考えます。

## 三　学校は地域の絆の源

学区解体に賛同できない三つ目の理由は、日本の学校は単に子どもの教育のみでなく、地域社会構造を支える基本システムである、ということです。

教師にとって小・中学区は職場である学校が存在する場ですが、そこに通う子どもと親には生活の場でもあります。昨今の中教審の中間まとめ、あるいは新しい学力観で、なぜ学校と地域連携が強調されるかを考えて下さい。学校と地域の連携は学区の固定、すなわち、子どもの生活空間と学習空間が重なっているからこそ意味があるのではないでしょうか。電車やバスを乗り継いで通う学校にとっての地域との連携とは、どのようなものでしょうか。

日本の学区は、明治期あるいは戦後の新教育発足時に、地域社会の区割りに基づき作られました。ところが、高度経済成長期の社会移動とその後の職住分離の生活様式によって、地縁で結びついた旧来の地域社会は解体せざるをえませんです。それにかわって、生活する場としての現在の地域の人間関係を結び付けているのは、子どもが通う学校が結ぶ縁です。子どもは地域のかすがいというのが、地域活動に携わる方たちの実感だと思います。

もし、学区が自由になり、生活の場と学ぶ場が職場と同様に異なるようになれば、現在の地域組織や活動の多くは担い手を失うでしょう。それは、かつて高度経済成長とともに進行した人と人の結びつきの解体が、より徹底した規模で二一世紀に進行し、〝生きる力〟の育成を再び学校のみが担わざるをえなくなることを意味します。

## 四　学区解体の条件

もちろん力量向上のために教師間の競争は必要です。しかし、それが学区の解体で可能になるなら、公立小中学校より学区の制約が弱い高校の場合、子どもと親が競って選択する進学高校の教師は全て立派で、不本意入学者が多い高校の教師は能力が劣るということになります。これが誤りであることはいうまでもないことでしょう。

あるいは、本当に学区の自由化で教師の質的向上を望むなら、各学校における人事と予算と教育課程の自由がセットでなければ、効果は現れえないでしょう。何よりも、競争の結果に伴う報酬の差が明確でなければ、競争をさける低レベルの同盟が始まることを、これまでの学校と教師の歴史が示していることを忘れないでほしいと思います。そして、オーナーである保護者の学校経営や教育課程編成への参加の仕組みが必要となることもあえていうまでもないことでしょう。

ところで、これまで学区解体を肯定できない理由をあげてきましたが、それと「いじめ対策」の転校とは次元が全く異なることを改めて確認しておきます。いじめは人権問題であり、それが犯される事態が生じれば、その解消に全ての教育資源が向けられるべきです。その手段として転校が有効であれば、当然認めるべきであることもまたあえていうまでもないことを、最後に再度強調しておきたいと思います。

馬居政幸

「学校運営研究」1996年12月号／Vol.35.No.457

特集

# 『生きる力』を育む 学校・家庭・地域の連携法


▼表紙2／わが校の環境づくり＝小澤　明　▼グラビア／わが校長室＝高柳正彦
▼扉／編集職場だより「先生に言えない"子どもの声"」9＝白石義則

▼子どもに必要な学校・家庭・地域連携のバランスとは
連携よりも親の参加を……松浦　善満　7
地域の教育要求の反映……福本みちよ　8
「地域の文化センター」に…高橋　史朗　9
家庭の教育力の回復……佐藤　正吉　10
学校は家庭・地域社会への情報発信源…岩佐　重明　11

中教審第一次答申にみる学校・家庭・地域連携の要点
〈成長環境の充実をめざして〉……高階　玲治　12

学校・家庭・地域の連携＝各界提言の要点
〈生涯学習の視点からの学校の再生〉……明石　要一　14

家庭・地域へ開かれた「五日制時代の学校像」を考える
授業を常時公開すること……舘野　健三　16
地域ごとに知恵を出し合って……亀井　浩明　18
学校現場の声を大切に！……山中　正和　20

〈学校発〉家庭・地域にどんな教育力を求めたいか
いまどきの親と地域と学校と……秦　セイ　22
心の優しさで結ぶネットワーク……丸山　義王　24
生きる力につながる感じる知性の育成……田村萬里子　26
自他ともに生きる感覚を育てる……石井　正文　28

完全五日制と学校・家庭・地域の連携ポイント／わが校のめざす方向
学校からの発信がカギ……伊藤　鉄朗　30
連携の水平的統合・垂直的統合……樺澤　徹二　32
「ゆとり」の時間を活用できる生徒の育成……篠田　信司　34
思い切った発想の転換が大切……野依　六郎　36
親は、子どもをからめとってはいけない……本吉　修二　38

学校・家庭・地域の連携と学校経営の見直し点
PTA活動のあり方をどう見直していくか……岩野　修　40
地域諸団体との関わりをどう見直していくか……米田　善喜　42
校内組織のどこを見直していくか……白石　裕一　44
校務分掌のどこを見直していくか……立岡　誠　46

学校・家庭・地域＝どんな場でどんな連携が可能か
授業と家庭・地域との連携の可能性……刀根　良典　48
学校行事と家庭・地域との連携の可能性……柏村　政　50
地域行事と家庭・地域との連携の可能性……白樫　静枝　52
危機管理と家庭・地域との連携の可能性……浅野　弘光　54

〈往復書簡〉「いじめ」転校と親の校区意識・その将来を読む
往信／大きくは学区解体！―小さくても親が教師の力量を問う時代へ―……横山　験也　56
復申／学区解体の先にあるものは……馬居　政幸　58

書評
感性を活かすホリスティック教育（高橋史朗著）……坂本昇一　60
学校の中の宗教（下村哲夫編）……庄司和晃　60

連載講座
職員室で議論して欲しい学校教育の諸課題・9
テストについて考える……文部省初等中等教育局長／辻村　哲夫　74
◆六角ディベートが分析するリーダー像・9「吉田松陰」
「吉田松陰」の行動にみるリーダーの条件他／その解説……松本　道弘　谷本　和典　70
◆指導主事は教室のどこを見ているか・9
しばらく教室にいるだけで分かる教師の資質（その1）……矢野　俊一　65
――教卓に何があるか――

私の出処進退・9　そのとき私はどうしたか――教師の意識変革と脱偏差値……竹内　克好　68

文教ニュース　'97年度文教予算概算要求の内容／少子化現象で小・中学生減少＝安達拓二……61

▼色紙4／読み切り連載／教師の子育て論―紺屋の白紺＝山根栄次　▼表紙3・4／わが校の伝統文化教育＝熊本県天草郡天草町立福連木小学校（盛田眞一・白田荘二）　＊表紙写真＝（株）モントレ

"学校を美術館にしよう"

12月／牛乳パック君の大冒険!!（2年6組）

埼玉県上尾市愛宕＝上尾中学校　高橋妙子

◀リサイクル7ヶ条を模造紙8枚つなぎのオリジナル・マンガでみんなにアッピール！みんなですわりこんじゃって。「キャッ。キャッ。」「ワハハハ……」ユーモアのセンス　バッチリ！


研究会案内
☆静岡県藤枝市立高洲南小学校第16回学習指導研究発表会…8
☆社会科・生活科研究発表会（東京都港区立青山小学校）…17
☆平成8年度神戸大学発達科学部附属明石校園「教育研究協議会」…67